

2020/9/6

(うとQ ブログ 不得手克服に活路在りや?)

ずいぶん昔の記事で

「得意なことで成功するよりも、苦手を克服した時の喜びの方が遥かに大きい」という意味のことを書いた記憶があります。

会社に入ったものの型に会わず上司からは

「お前に対する扱い方を変えなくちゃならんようだな」

と言われ、その後猛烈なパワハラに会ってうつ病になりました。

その大きな会社内でうつ病になり、その大組織内では、なかなか立ち直れずに自分を見て親父が

「どうやら俺はお前の進路指導を間違えたようだな。好きにさせておけばよかったのかもしれない」

と言いました。

その後、長期罹患のうつ病が元で、奥さんと離婚した後で担当の精神科の医師が

「離婚にはいい離婚と悪い離婚があるが、あなたの場合は、いい離婚だったようだ」

と自分に個人的な感想を漏らしました。

であるなら、結論として「大きな会社などには鼻から入らず、自分なりの得意分野で生きていけばよかった」となるかといえば、そうとも言えない気がします。

むしろ自分の得手、得意分野とは全く正反対の「苦手、不得手」分野の中に身を置いた効用というものは、必ずあったような気がしております。

そうしてそれを克服(得解会得)した折の喜びの記憶が、今の自分の、矢鱈と難問にばかり挑みたがる「難問愛好家」の元になっているような気がしないでもありません。

もちろん自分の完全なる勘違いで「単なる自虐体質」というだけなのかもしれませんが。